

Family list

31 family members for:

WO9609287

Derived from 27 applications.

- 1 **NEUE HETEROCYCLISCHE VERBINDUNGEN, VERFAHREN ZU DEREN HERSTELLUNG SOWIE MEDIZINISCHE VERWENDUNG**
NEUE HETEROCYCLISCHE VERBINDUNGEN, VERFAHREN ZU DEREN HERSTELLUNG SOWIE MEDIZINISCHE VERWENDUNG
Publication info: AT244220T T - 2003-07-15
- 2 **1-ACETYL-5-BROMO-4,6-DIMETHYLINDOLIN**
1-ACETYL-5-BROMO-4,6-DIMETHYLINDOLIN
Publication info: AT255091T T - 2003-12-15
- 3 **Novel heterocyclic derivatives, process for producing the same, and medicinal use thereof**
Publication info: AU693261 B2 - 1998-06-25
- 4 **Novel heterocyclic derivatives**
Publication info: AU705798 B2 - 1999-06-03
- 5 **Novel heterocyclic derivatives, process for producing the same, and medicinal use thereof**
Publication info: AU3532495 A - 1996-04-09
- 6 **Novel heterocyclic derivatives**
Publication info: AU7995898 A - 1998-10-01
- 7 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, METHOD OF PRODUCTION THEREOF AND PHARMACEUTICAL USE THEREOF**
Publication info: CA2200472 A1 - 1996-03-28
- 8 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: DE69531213D D1 - 2003-08-07
- 9 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: DE69531213T T2 - 2004-04-15
- 10 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: DE69532216D D1 - 2004-01-08
- 11 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: DE69532216T T2 - 2004-09-16
- 12 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: DK782986T T3 - 2003-10-06
- 13 **1-Acetyl-5-brom-4,6-dimethylindolin**
1-Acetyl-5-brom-4,6-dimethylindolin
Publication info: DK1136474T T3 - 2004-02-23
- 14 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: EP0782986 A1 - 1997-07-09
EP0782986 A4 - 2000-04-05
EP0782986 B1 - 2003-07-02
- 15 **1-Acetyl-5-bromo-4,6-dimethylindoline**
Publication info: EP1136474 A1 - 2001-09-26
EP1136474 B1 - 2003-11-26
- 16 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: ES2200003T T3 - 2004-03-01
- 17 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: ES2206367T T3 - 2004-05-16
- 18 **1-ACETYL-5-BROMO-4, 6-DIMETHYLINDOLINE**

BEST AVAILABLE COPY

Publication info: HK1040513 A1 - 2004-06-18

19 NEW HETEROCYCLIC DERIVATIVE, ITS PRODUCTION AND ITS PHARMACEUTICAL USE

Publication info: JP8092210 A - 1996-04-09

20 NOVOS DERIVADOS HETEROCICLICOS PROCESSO PARA A PRODUCAO DOS MESMOS E SUA UTILIZACAO MEDICINALNOVOS DERIVADOS HETEROCICLICOS PROCESSO PARA A PRODUCAO DOS MESMOS E SUA UTILIZACAO MEDICINAL

Publication info: PT782986T T - 2003-11-28

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

Family list

31 family members for:

WO9609287

Derived from 27 applications.

- 21 **1-ACETIL-5-BROMO-4,6-DIMETILINDOLINA1-ACETIL-5-BROMO-4,6-DIMETILINDOLINA**
Publication info: PT1136474T T - 2004-04-30
- ✓ 22 **Heterocyclic derivatives, method of production thereof and pharmaceutical use thereof**
Publication info: US5990150 A - 1999-11-23
- ✓ 23 **Method for inhibiting acyl-CoA : cholesterol acyltransferase**
Publication info: US6127403 A - 2000-10-03
- ✓ 24 **Heterocyclic derivatives, method of production thereof and pharmaceutical use thereof**
Publication info: US6204392 B1 - 2001-03-20
- ✓ 25 **Heterocyclic derivatives, method of production thereof and pharmaceutical use thereof**
Publication info: US6414012 B1 - 2002-07-02
- ✓ 26 **Method of producing heterocyclic derivatives**
Publication info: US6489475 B2 - 2002-12-03
US2001014740 A1 - 2001-08-16
- 27 **NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF**
Publication info: WO9609287 A1 - 1996-03-28

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

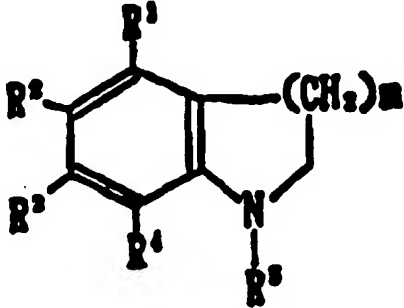
世界知的所有権機関

国際事務局

PCT

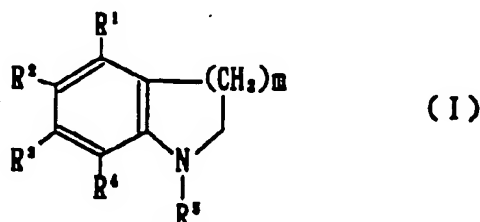
特許協力条約に基づいて公開された国際出願



(51) 国際特許分類6 C07D 209/08, 401/12, 403/12, 487/06, 498/06, 215/40, A61K 31/40, 31/44, 31/445, 31/495, 31/47	A1	(11) 国際公開番号 WO96/09287 (43) 国際公開日 1996年3月28日(28.03.96)
(21) 国際出願番号 PCT/JP95/01873 (22) 国際出願日 1995年9月20日(20.09.95) (30) 優先権データ 特願平6/225166 1994年9月20日(20.09.94) JP (71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) 京都薬品工業株式会社 (KYOTO PHARMACEUTICAL INDUSTRIES, LTD.)[JP/JP] 〒604 京都府京都市中京区西ノ京月輪町38番地 Kyoto, (JP) (72) 発明者：および (75) 発明者／出願人 (米国についてのみ) 松井 博(MATSUI, Hiroshi)[JP/JP] 〒631 奈良県奈良市三松3丁目14番4号 Nara, (JP) 神谷尚治(KAMIYA, Shoji)[JP/JP] 〒615 京都府京都市西京区上桂三ノ宮町50番地39号 第5コーポ中川202号 Kyoto, (JP) 白波瀬弘明(SHIRAHASE, Hiroaki)[JP/JP] 〒617 京都府長岡京市今里川原38番地の35 Kyoto, (JP) 中村正平(NAKAMURA, Shohei)[JP/JP] 〒616 京都府京都市右京区太秦多藪町14番地 レジデンス・ベレ・シャンプル6004号 Kyoto, (JP)	和田勝夫(WADA, Katsuo)[JP/JP] 〒569-11 大阪府高槻市上土室1丁目10番 ヒルズコート高槻3番館502号 Osaka, (JP) (74) 代理人 弁理士 高島 一(TAKASHIMA, Hajime) 〒541 大阪府大阪市中央区平野町三丁目3番9号 (湯木ビル) Osaka, (JP) (81) 指定国 AU, CA, KR, US, 欧州特許(AT, BE, CH, DE, DK, ES, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE). 添付公開書類 国際調査報告書 請求の範囲の補正の期限前であり、補正書受領の際には再公開される。	
(54) Title : NOVEL HETEROCYCLIC DERIVATIVES, PROCESS FOR PRODUCING THE SAME, AND MEDICINAL USE THEREOF (54) 発明の名称 新規ヘテロ環誘導体、その製造方法およびその医薬用途 (57) Abstract <p>A heterocyclic derivative represented by general formula (I) or medicinally acceptable salts thereof, a process for producing the same, and a medicinal composition containing the heterocyclic derivative or medicinally acceptable salt thereof, in particular, an ACAT inhibitor and a lipid peroxidation inhibitor, (wherein each symbol is as defined in the specification). As these compounds have excellent ACAT inhibitory and lipid peroxidation inhibitory effects, they are useful as an ACAT inhibitor and a lipid peroxidation inhibitor. More specifically, they are useful for preventing and treating arteriosclerosis, hyperlipemia, arteriosclerotic lesion in diabetes, and ischemic diseases of brain, heart or the like.</p> <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: right;">(I)</p> </div>		

(57) 要約

一般式 (I)



(式中、各記号は明細書に記載のとおり。)

で表されるヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩、およびその製造方法。
また、当該ヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩を含有してなる医薬組成物、特にACAT阻害剤、脂質過酸化阻害剤。

本発明のヘテロ環誘導体およびその医薬上許容される塩は、優れたACAT阻害作用および脂質過酸化阻害作用を示し、ACAT阻害剤および脂質過酸化阻害剤として有用である。即ち、動脈硬化症、高脂血症、糖尿病における動脈硬化性病変、脳および心臓等の虚血性疾患等の予防および治療に有用である。

情報としての用途のみ

PCTに基づいて公開される国際出願をパンフレット第一頁にPCT加盟国を特定するために使用されるコード

AL	アルバニア	DK	デンマーク	LK	スリランカ	PT	ポルトガル
AM	アルメニア	EE	エストニア	LR	リベリア	RO	ルーマニア
AT	オーストリア	ES	スペイン	LS	レソト	RU	ロシア連邦
AU	オーストラリア	FI	フィンランド	LT	リトアニア	SD	スーダン
AZ	アゼルバイジャン	FR	フランス	LU	ルクセンブルグ	SE	スウェーデン
BB	バルバドス	GB	ガボン	LV	ラトヴィア	SG	シンガポール
BE	ベルギー	GE	イギリス	MC	モナコ	SI	スロベニア共和国
BG	ブルガリア	GR	ギリシャ	MD	モルドバ	SK	スロヴァキア共和国
BJ	ベナン	GN	ギニア	MG	マダガスカル	SN	セネガル
BR	ブラジル	HU	ハンガリー	MA	マケドニア旧ユーゴ	SZ	スワジランド
BY	ベラルーシ	IE	アイルランド	MK	スラヴィア共和国	TD	チャド
CA	カナダ	IT	イタリア	ML	マリ	TG	トゴ
CF	中央アフリカ共和国	JP	日本	MN	モンゴル	TJ	タジキスタン
CG	コンゴ	KE	ケニア	MR	モリタニア	TM	トルクメニスタン
CH	スイス	KG	キルギスタン	MW	マラウイ	TR	トルコ
CI	コート・ジボアール	KP	朝鮮民主主義人民共和国	MX	メキシコ	TT	トリニダード・トバゴ
CM	カメルーン	KR	大韓民国	NE	ニジェール	UA	ウクライナ
CN	中国	KZ	カザフスタン	NL	オランダ	UG	ウガンダ
CZ	チェコ共和国	LI	リヒテンシュタイン	NO	ノルウェー	US	米国
DE	ドイツ			NZ	ニュージーランド	UZ	ウズベキスタン共和国
				PL	ポーランド	VN	ヴェトナム

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

明細書

新規ヘテロ環誘導体、その製造方法およびその医薬用途

技術分野

本発明は、新規ヘテロ環誘導体、その製造方法およびその医薬用途に関する。より詳細には、インドリン環またはテトラヒドロキノリン環を有する新規ヘテロ環誘導体、その製造方法およびその医薬用途〔特に、アシルーコエンザイムA：コレステロールアシルトランスフェラーゼ（以下、「ACAT」という）の阻害剤、および脂質過酸化の阻害剤〕に関する。

背景技術

動脈硬化症は種々の循環器疾患の要因として極めて重要なことは周知のことであり、動脈硬化の進展の抑制あるいは動脈硬化の退縮を目指して、活発な研究がなされている。特に血液中や動脈壁中のコレステロールを低下させる薬剤は、有用性が認められてはいるものの、臨床効果が明確で副作用の少ない理想的な薬剤はまだ実現されていない。

近年、動脈壁中のコレステロールエステルの蓄積が動脈硬化症の進展に重要な要因となっていることが明らかにされてきた。従って、血液中のコレステロール量を低下させることは、動脈壁中へのコレステロールエステルの蓄積を低減し、動脈硬化症の進展抑制および退縮に有効である。

食物中のコレステロールは、小腸粘膜中でエステル化された後、カイロミクロンとして血液中へとりこまれる。この小腸粘膜中のコレステロールエステルの生成に、ACATが重要な役割を演じていることが知られている。従って、小腸粘膜中のACATを阻害してコレステロールのエステル化を抑制することにより、血液中へのコレステロール吸収が妨げられ、血中コレステロール量を低下させることができると考えられる。

また、動脈壁では、ACATによりコレステロールがエステル化され、コレステロールエステルとして蓄積される。従って、動脈壁中のACATを阻害することにより、コレステロールエステルの蓄積を有効に抑制することが期待される。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

以上のことから、ACAT阻害剤は、小腸でのコレステロールの吸収ならびに動脈壁へのコレステロールの蓄積を抑制することにより、高脂血症および動脈硬化症等に対する有効な薬剤になると考えられる。

従来、かかるACAT阻害剤として、例えばアミドおよび尿素誘導体 (J. Med. Chem., 29: 1131 (1986)、特開平2-117651号公報、特開平2-7259号公報、特開平5-32666号公報、特開平4-327564号公報等参照) が報告されている。

しかしながら、これら化合物の創製、および薬理学的研究は未だ十分とは言い難い。

また、動脈壁中へのコレステロールエステルの蓄積には、低比重リポタンパク (LDL) の過酸化変性も重要な役割を演じている。さらに、生体における脂質の過酸化は、動脈硬化症や脳および心臓血管系における虚血性疾患の発症と深い関わりがあることが知られている。

従って、ACAT阻害作用と脂質過酸化阻害作用を併せ持つ化合物は、動脈壁中へのコレステロールエステルの蓄積をより効果的に減少させるとともに、生体内の脂質の過酸化をも阻害することにより、これらに起因する種々の血管病変を予防および治療することができ、医薬品としての有用性が高い。

本発明は、ACAT阻害作用および脂質過酸化阻害作用を有する化合物、その製造方法、およびその医薬用途 (特に、ACAT阻害剤、脂質過酸化阻害剤) の提供を目的とする。

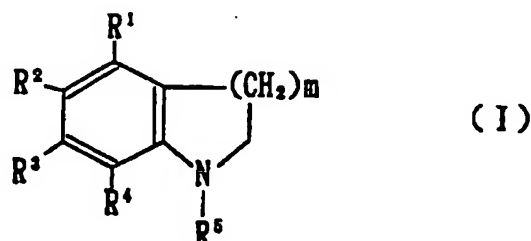
発明の開示

本発明者らは、上記目的を達成すべく鋭意研究を重ねた結果、インドリン環またはテトラヒドロキノリン環を有する特定のヘテロ環誘導体が、強いACAT阻害作用を有するだけでなく、脂質過酸化阻害作用も併せ持ち、強い抗高脂血症作用および抗動脈硬化作用を有することを見出し、本発明を完成した。

即ち、本発明は、一般式 (I)

WO 96/09287

PCT/JP95/01873



〔式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 および R^4 のいずれか 1 つは $-NHCO-R^5$ (R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、 $-R^6 SO_2 A$ 、 $-R^6 PO_2 B$ (R^6 および R^7 はそれぞれアルキレン基を、 A および B はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)、 $-NR^7 R^8$ (R^7 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を、 R^8 は水素原子または低級アルキル基を示す) または $-R^9 -OCOR^{10}$ (R^9 はアルキレン基を、 R^{10} は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基を示す) を示す) で表される基を示し、また残りの 3 つは同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、 R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、ジアルキルアミノアシルオキシアルキル基、 $-R^6 SO_2 D$ または $-R^6 PO_2 E$ (R^6 および R^7 はそれぞれアルキレン基を、 D および E

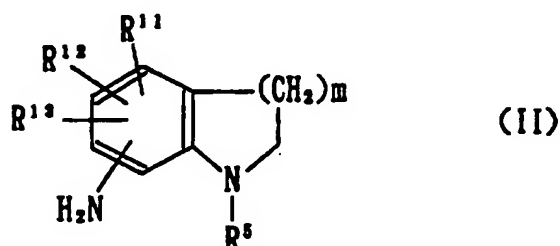
WO 96/09287

PCT/JP95/01873

はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)を示し、また、 R^4 が $-NHCO-R^5$ である場合には R^4 と R^5 が一緒になって環を形成していてもよく、 m は 1 または 2 を示す。]

で表されるヘテロ環誘導体 (以下、化合物 (I) ともいう) またはその医薬上許容される塩に関する。

また、本発明は、①一般式 (II)



[式中、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} は同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、 R^5 、 m は前記と同義である。]

で表されるアミン (以下、化合物 (II) ともいう) と、一般式 (III)



[式中、 R^7 は前記と同義である。]

で表されるイソシアナート (以下、化合物 (III) ともいう) を反応させる工程を経るか、

②化合物 (II) と、一般式 (IV)



[式中、 X はハロゲン原子を示し、 R^8 は前記と同義である。]

で表されるハロゲン化合物 (以下、化合物 (IV) ともいう) を反応させる工程を経るか、

③化合物 (II) と、一般式 (V)



[式中、 $R^{8'}$ は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよ

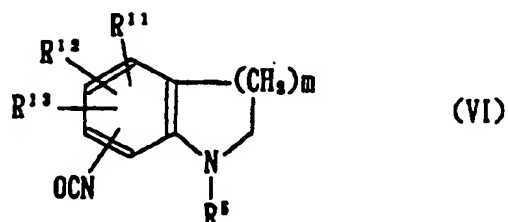
WO 96/09287

PCT/JP95/01873

いシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基を示す。]

で表されるカルボン酸（以下、化合物（V）ともいう）またはその反応性誘導体を反応させる工程を経るか、

④一般式（VI）



〔式中、 R^5 、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} 、 m は前記と同義である。〕

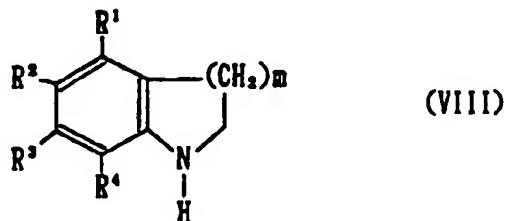
で表されるイソシアナート（以下、化合物（VI）ともいう）と、一般式（VII）



〔式中、 R^7 、 R^8 は前記と同義である。〕

で表されるアミン（以下、化合物（VII）ともいう）を反応させる工程を経るか、または、

⑤一般式（VIII）



〔式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^4 、 m は前記と同義である。〕

で表される化合物（以下、化合物（VIII）ともいう）と、一般式（IX）



WO 96/09287

PCT/JP95/01873

〔式中、 R^5 、 X は前記と同義である。〕

で表される化合物（以下、化合物（IX）ともいう）を反応させる工程を経ることを特徴とする、上記ヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩の製造方法に関する。

さらに、本発明は、上記ヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩を含有してなる医薬組成物、およびACA T阻害剤、脂質過酸化阻害剤に関する。

本明細書中に用いられている各記号について、以下に説明する。

R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} における低級アルキル基としては、好ましくは炭素数1～4であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル等が挙げられる。

R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^4 、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} における低級アルコキシ基としては、好ましくは炭素数1～4であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばメトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、イソブトキシ、sec-ブトキシ、tert-ブトキシ等が挙げられる。

R^5 、 R^6 、 R^{14} 、 R^{15} 、 R^{16} におけるアルキル基としては、好ましくは炭素数1～12であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、イソペンチル、ネオペンチル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、ノニル、デシル、ウンデシル、ドデシル、1，1-ジメチルプロピル、1，1-ジメチルブチル、1，1-ジメチルペンチル、1，1-ジメチルヘキシル、3，3-ジメチルブチル、4，4-ジメチルブチル等が挙げられる。

R^5 、 R^6 、 R^{14} 、 R^{15} におけるシクロアルキル基としては、好ましくは炭素数3～6であり、例えばシクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル等が挙げられる。

R^5 、 R^6 、 R^{14} 、 R^{15} におけるシクロアルキルアルキル基としては、そのシクロアルキル部は好ましくは炭素数3～6であり、アルキル部は好ましくは炭素

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

数 1～3 であり、例えばシクロプロピルメチル、シクロブチルメチル、シクロペンチルメチル、シクロヘキシルメチル、シクロプロピルエチル、シクロプロピルプロピル等が挙げられる。

R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 におけるアリール基としては、例えばフェニル、ナフチル等が挙げられる。

R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 におけるアリールアルキル基としては、そのアリール部は前述と同様のものが挙げられ、アルキル部は好ましくは炭素数 1～4 であり、例えばベンジル、1-フェニルエチル、2-フェニルエチル、1-フェニルプロピル、2-フェニルプロピル、3-フェニルプロピル等が挙げられる。

R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 におけるヘテロサイクル基とは、複素環式化合物の環に結合する水素原子が 1 個脱離して生じる 1 価の基のことであり、脂肪族系でも芳香族系でもよく、例えばピロリジニル、ピペリジニル、ピペリジノ、モルホリニル、モルホリノ、ピペラジニル、ピロリル、イミダゾリル、ピリジニル等が挙げられる。

R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 におけるヘテロサイクリックアルキル基としては、そのヘテロサイクル部は前述と同様のものが挙げられ、アルキル部は好ましくは炭素数 1～8 であり、例えば (1-ピロリジニル) プロピル、モルホリノプロピル、1, 1-ジメチル-2-(1-ピロリジニル) エチル、1, 1-ジメチル-2-ピペリジノエチル、1, 1-ジメチル-3-(イミダゾール-1-イル) プロピル、(2, 6-ジメチルピペリジノ) メチル、(2, 6-ジメチルピペリジノ) エチル、(2, 6-ジメチルピペリジノ) プロピル等が挙げられる。

上記アルキル基、シクロアルキル基、シクロアルキルアルキル基、アリール基、アリールアルキル基、ヘテロサイクル基、ヘテロサイクリックアルキル基は置換基を有していてもよく、置換基としては、例えばアルキル基、アミノ基、水酸基、ジアルキルアミノ基、アミノアルキル基、アルコキシ基、カルボキシ基、アルコキシカルボニル基、カルボキシアルキル基、アシルオキシ基、フェニル基、フェノキシ基、ハロゲン原子等が挙げられる。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

ここで、アルキル基、ジアルキルアミノ基、アミノアルキル基、カルボキシアルキル基におけるアルキル基としては、前述の低級アルキル基と同様のものが挙げられる。アルコキシ基、アルコキシカルボニル基におけるアルコキシ基としては、前述の低級アルコキシ基と同様のものが挙げられる。アシルオキシ基としては、好ましくは炭素数2～5で、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばアセチルオキシ、プロピオニルオキシ、ブチリルオキシ、バレリルオキシ、ピバロイルオキシ等が挙げられる。ハロゲン原子としては、後述と同様のものが挙げられる。また、ジアルキルアミノ基におけるアルキル基はフェニル基で置換されていてもよい。

R^5 におけるアルケニル基としては、好ましくは炭素数2～8であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばエテニル、プロベニル、イソプロベニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニル、ヘプテニル、オクテニル、3, 3-ジメチル-2-プロベニル等が挙げられる。

R^5 におけるアルキニル基としては、好ましくは炭素数2～8であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばエチニル、プロビニル、ブチニル、ペンチニル、ヘキシニル、ヘプチニル、オクチニル、3, 3-ジメチル-2-プロビニル等が挙げられる。

R^5 におけるジアルキルアミノアシルオキシアルキル基としては、そのアルキル部は好ましくは炭素数1～8であり、また、アシル部は好ましくは炭素数2～5であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばアセチル、プロピオニル、ブチリル、バレリル、ピバロイル等が挙げられる。ジアルキルアミノアシルオキシアルキル基は、具体的には、N, N-ジメチルアミノアセトキシエチル、N, N-ジメチルアミノアセトキシプロピル等が挙げられる。

R^4 、 R^6 、 R^7 、 R^8 、 R^9 におけるアルキレン基としては、好ましくは炭素数1～8であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えばメチレン、エチレン、トリメチレン、プロピレン、テトラメチレン、ペンタメチレン、ヘキサメチレン、1, 1-ジメチルエチレン、2, 2-ジメチルプロピレン等が挙げられる。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

A、B、D、Eにおけるアルカリ金属としては、ナトリウム、カリウム等が好ましい。

Xにおけるハロゲン原子としては、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等が挙げられる。

R^4 が $-NHCO-R^5$ である場合には R^4 と R^5 が一緒になって環を形成していてもよいが、このとき R^4 と R^5 が一緒になって表される基 ($-R^4-R^5-$) としては、好ましくは炭素数 2~12 であり、直鎖状でも分枝鎖状でもよく、例えば 1, 1-ジメチルトリメチレン、1, 1-ジメチルトetraメチレン、2, 2-ジメチルトetraメチレン、1, 1-ジメチルペンタメチレン、2, 2-ジメチルペンタメチレン等のアルキレン基、 $-C(CH_3)_2CH_2OCO(CH_3)_2-$ 、 $-C(CH_3)_2CH_2OCOC(CH_3)_2(CH_2)_2-$ 等の $-OCO-$ 結合を有するアルキレン基等が挙げられる。

本発明の化合物 (I) において好ましい化合物としては、例えば、
1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル) ウレア、
1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル) ウレア、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、
N-(1-ペンチル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、
N-(1-イソブチル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルブタンアミド、

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルペンタンアミド、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-シクロヘキサンアミド、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチル-3-エトキシプロパンアミド、
N-(1-エトキシプロピル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチル-3-ピペリジノプロパンアミド、
N-(1-ピペリジノプロピル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 6-ジメチルピペリジノプロパンアミド等、またはその医薬上許容される塩が挙げられる。

化合物(I)は、医薬上許容される塩が形成されていてもよい。

化合物(I)は塩基性の基を有するため酸付加塩を形成することができ、この酸付加塩を形成するための酸としては、塩酸、硫酸、リン酸、硝酸等の無機酸、シュウ酸、フマル酸、マレイン酸、クエン酸、酒石酸、メタンスルホン酸、トルエンスルホン酸等の有機酸等が挙げられる。

また、化合物(I)がカルボキシル基等の酸性の基を有する場合は、アルカリ金属塩(例えばナトリウム塩、カリウム塩等)、アルカリ土類金属塩(例えばカルジウム塩、マグネシウム塩等)、有機塩基塩(例えばトリエチルアミン塩、シクロヘキシルアミン塩、ピリジン塩等)等を形成することができる。

本発明の化合物(I)およびその医薬上許容される塩は、以下の方法等により製造することができる。

〔製造方法1〕

化合物(II)と化合物(III)を反応させる方法。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

この方法は、一般式 (I) において R^6 が $-NR^7 R^8$ (R^8 が水素原子の場合) である化合物の製造方法である。

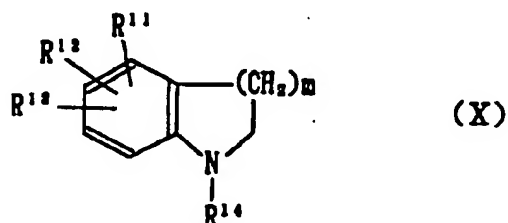
当該反応は、通常不活性溶媒中で行われる。不活性溶媒としては、具体的にはアセトン、ジオキサン、アセトニトリル、クロロホルム、ベンゼン、塩化メチレン、塩化エチレン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、N, N-ジメチルホルムアミド、ピリジン、水等、またはこれらの混合物等が挙げられる。

また、トリエチルアミン、ピリジン、4-ジメチルアミノピリジン、炭酸カリウム等の塩基を使用することができる。

反応温度は通常 $-10 \sim 160^\circ\text{C}$ 、好ましくは $20 \sim 100^\circ\text{C}$ であり、反応時間は通常 30 分間～10 時間である。

原料化合物 (II) は、例えば以下のようにして製造することができる。

まず、酢酸と硫酸の混合溶媒中、硝酸を用いて、一般式 (X)



[式中、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} 、 m は前記と同義であり、 R^{14} はアミノ保護基を示す。]で表される化合物 [J. Eric. Mordlander, et al., J. Org. Chem., 46, 778-782 (1981)参照] をニトロ化 (ベンゼン環上にニトロ基を導入) した後、アミノ保護基を脱保護させる。こうして得られた化合物と、化合物 (IX) を反応させた後、パラジウム-炭素等の触媒を用いてニトロ基の還元を行い、原料化合物 (II) を製造することができる。

R^{14} のアミノ保護基としては、ホルミル、アセチル、モノクロロアセチル、ジクロロアセチル、トリクロロアセチル、トリフルオロアセチル、プロピオニル、ベンゾイル等のアシル基等が挙げられる。

当該アミノ保護基の脱保護は、自体既知の方法により行われる。例えば、酸 (

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

塩酸、ギ酸、トリフルオロ酢酸等)によって処理する方法、アルカリ(水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム等)によって処理する方法等が挙げられる。

〔製造方法2〕

化合物(II)と化合物(IV)を反応させる方法。

この方法は、一般式(I)においてR'が前記定義のあらゆるものを示す場合の製造方法である。

当該反応は、通常不活性溶媒中で行われる。不活性溶媒としては、具体的にはアセトン、ジオキサン、アセトニトリル、クロロホルム、ベンゼン、塩化メチレン、塩化エチレン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、N,N-ジメチルホルムアミド、ピリジン、水等、またはこれらの混合物等が挙げられる。

また、トリエチルアミン、ピリジン、4-ジメチルアミノピリジン、炭酸カリウム等の塩基を使用することができる。

反応温度は通常-10～100℃、好ましくは0～60℃であり、反応時間は通常30分間～10時間である。

〔製造方法3〕

化合物(II)と、化合物(V)またはその反応性誘導体を反応させる方法。

この方法は、一般式(I)においてR'がR''である化合物の製造方法である。

当該反応は、通常不活性溶媒中で行われる。不活性溶媒としては、具体的にはアセトン、ジオキサン、アセトニトリル、クロロホルム、ベンゼン、塩化メチレン、塩化エチレン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、N,N-ジメチルホルムアミド、ピリジン、水等、またはこれらの混合物等が挙げられる。

また、トリエチルアミン、ピリジン、4-ジメチルアミノピリジン、炭酸カリウム等の塩基を使用することができる。

反応温度は通常-10～100℃、好ましくは0～60℃であり、反応時間は通常30分間～10時間である。

化合物(V)は、遊離酸として、あるいはナトリウム、カリウム、カルシウム、

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

トリエチルアミン、ピリジン等の塩として、あるいは酸無水物、混合酸無水物（置換リン酸（ジアルキルリン酸等）、アルキル炭酸（モノエチル炭酸等）等）、活性アミド（イミダゾール等とのアミド）、エステル（シアノメチルエステル、4-ニトロフェニルエステル等）等の反応性誘導体として、当該反応に供される。

また、この反応において、化合物（V）を遊離酸または塩の状態で使用する場合には縮合剤の存在下で反応を行うのが好ましい。縮合剤としては、例えばN, N'-ジシクロヘキシルカルボジイミド等のN, N'-ジ置換カルボジイミド類；1-エチル-3-(3'-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド、N-シクロヘキシル-N'-モルホリノエチルカルボジイミド、N-シクロヘキシル-N'-(4-ジエチルアミノシクロヘキシル)カルボジイミド等のカルボジイミド化合物；N, N'-カルボニルジイミダゾール、N, N'-チオニルジイミダゾールのようなアゾライド化合物等の脱水剤等が用いられる。これらの縮合剤を用いた場合、反応はカルボン酸の反応性誘導体を経て進行すると考えられる。

〔製造方法4〕

化合物（VI）と化合物（VII）を反応させる方法。

この方法は、一般式（I）においてR⁶が-NR⁷R⁸である化合物の製造方法である。

当該反応は、通常不活性溶媒中で行われる。不活性溶媒としては、具体的にはアセトン、ジオキサン、アセトニトリル、クロロホルム、ベンゼン、塩化メチレン、塩化エチレン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、N, N-ジメチルホルムアミド、ピリジン、水等、またはこれらの混合物等が挙げられる。

また、トリエチルアミン、ピリジン、4-ジメチルアミノピリジン、炭酸カリウム等の塩基を使用することができる。

反応温度は通常-10～160℃、好ましくは10～100℃であり、反応時間は通常30分間～10時間である。

また、原料化合物（VI）は、例えば、化合物（II）を不活性溶媒に溶解し、フォスゲン等を吹き込むことにより製造することができる。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

〔製造方法 5〕

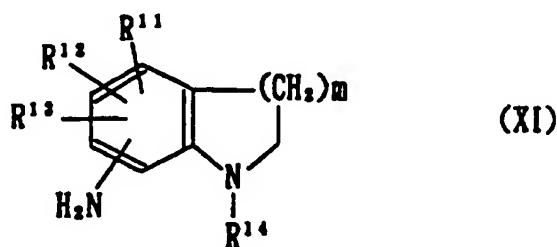
化合物(VIII)と化合物(IX)を反応させる方法。

当該反応は、通常不活性溶媒中で行われる。不活性溶媒としては、具体的にはアセトン、ジオキサン、アセトニトリル、クロロホルム、ベンゼン、塩化メチレン、塩化エチレン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、N, N-ジメチルホルムアミド、ピリジン、水等、またはこれらの混合物等が挙げられる。

また、トリエチルアミン、ピリジン、4-ジメチルアミノピリジン、炭酸カリウム、水素化ナトリウム等の塩基を使用することができる。

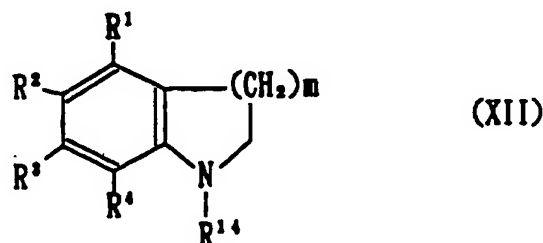
反応温度は通常 $-10 \sim 100^{\circ}\text{C}$ 、好ましくは $0 \sim 60^{\circ}\text{C}$ であり、反応時間は通常30分間～10時間である。

また、原料化合物(VIII)は、例えば一般式(X)で表される化合物をニトロ化(ベンゼン環上にニトロ基を導入)した後、パラジウム-炭素等の触媒を用いてニトロ基の還元を行い、一般式(XI)



〔式中、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} 、 R^{14} 、 m は前記と同義である。〕

で表される化合物を得る。次いで、当該化合物を原料として製造方法2に準じて一般式(XII)



〔式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^4 、 R^{14} 、 m は前記と同義である。〕

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

で表される化合物を得、これを脱保護することにより製造することができる。

上記のようにして得られた本発明化合物（I）は、従来公知の方法（例えばクロマトグラフィー、再結晶等）により、精製することができる。

また、当該化合物（I）は、自体既知の方法によって、その医薬上許容される塩にすることができる。

本発明の化合物（I）およびその医薬上許容される塩は、哺乳動物（ヒト、ウシ、ウマ、イヌ、ネコ、ウサギ、ラット、マウス、ハムスター等）に対して、優れたACAT阻害作用および脂質過酸化阻害作用を示し、ACAT阻害剤および脂質過酸化阻害剤として有用である。即ち、動脈硬化症、高脂血症、糖尿病における動脈硬化性病変、脳および心臓等の虚血性疾患等の予防および治療に有用である。

本発明の化合物（I）またはその医薬上許容される塩を含有してなる医薬組成物には、添加剤等を配合することができる。添加剤としては、例えば賦形剤（例えばデンプン、乳糖、砂糖、炭酸カルシウム、リン酸カルシウム等）、結合剤（例えばデンプン、アラビアゴム、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース等）、滑沢剤（例えばステアリン酸マグネシウム、タルク等）、崩壊剤（例えばカルボキシメチルセルロースカルシウム、タルク等）等が挙げられる。

上記成分等を混合した後、混合物を自体公知の手段に従い、例えばカプセル剤、錠剤、細粒剤、顆粒剤、ドライシロップ等の経口投与用、または注射剤、坐剤等の非経口投与用の製剤とすることができる。

本発明の化合物（I）およびその医薬上許容される塩の投与量は、投与対象、症状、その他によって異なるが、例えば高コレステロール血症患者に対して、成人に経口投与する場合、1回量約0.1～50mg/kg体重を1日1～3回程度投与すればよい。

以下に実施例を挙げて本発明をより詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

実施例 1 : 1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル) ウレア

(1) 1-アセチル-4, 6-ジメチルインドリン

4, 6-ジメチルインドール 1.08 g を酢酸 20 ml に溶解し、15℃にて水素化シアノホウ素ナトリウム 2.3 g を分割添加した。同温度で1時間攪拌後、氷水中に注加し、飽和炭酸水素ナトリウム水を加えて中和し、酢酸エチルにて抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧下留去した。残渣をベンゼンに溶解し、無水酢酸 840 mg を加えて室温で1時間攪拌した。反応液を飽和炭酸水素ナトリウム、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開溶媒；クロロホルム-メタノール=1:0~10:1）で精製し、標記化合物（1）1.3 g を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

2.18 (6H, s, $-\text{CH}_3$, $-\text{COCH}_3$), 2.30 (3H, s, $-\text{CH}_3$),
3.00 (2H, t, $J=8.3\text{Hz}$, $\text{C}_3\text{-H}_2$), 4.03 (2H, t, $J=8.3\text{Hz}$, $\text{C}_5\text{-H}_2$),
6.66 (1H, s, $\text{C}_8\text{-H}$), 7.89 (1H, s, $\text{C}_7\text{-H}$)

(2) 1-アセチル-4, 6-ジメチル-5-ニトロインドリン

1-アセチル-4, 6-ジメチルインドリン 2.6 g を無水酢酸 35 ml に溶解し、0℃にて、無水酢酸 15 ml に溶解した硝酸 ($d=1.5$) 0.92 ml を滴下した。室温で1時間攪拌後、氷水中に注加し、飽和炭酸水素ナトリウム水を加えて中和し、クロロホルムにて抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開溶媒；クロロホルム-メタノール=1:0~100:1）で精製し、標記化合物（2）2.4 g を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

2.17 (3H, s, $-\text{COCH}_3$), 2.24 (3H, s, $-\text{CH}_3$),
2.30 (3H, s, $-\text{CH}_3$), 3.08 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$, $\text{C}_3\text{-H}_2$).

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

4.14 (2H, t, $J=8.3\text{Hz}$, $\text{C}_2\text{-H}_2$), 8.00 (1H, s, $\text{C}_7\text{-H}$)

(3) 4, 6-ジメチル-1-ヘキシル-5-ニトロインドリン

(2) で得られた1-アセチル-4, 6-ジメチル-5-ニトロインドリン2.4 gをメタノール25 mlに溶解し、6 N塩酸20 mlを加え、15時間還流した。反応終了後、溶媒を減圧下留去し、残渣をクロロホルムに溶解し、飽和炭酸水素ナトリウム水、飽和食塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧下留去した。得られた1.8 gのインドリンをジメチルホルムアミド20 mlに溶解し、0℃にて水素化ナトリウム (abt. 60% oil suspension) 457 mgを加えた。同温度で0.5時間攪拌後、反応液にヘキシルブロマイド1.8 gを加え、室温で3時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルにて抽出し、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (展開溶媒: ヘキサン-酢酸エチル=1:0~10:1) で精製し、標記化合物(3) 2.8 gを得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

0.90 (3H, br-t, $-\text{CH}_3$), 1.2 - 1.8 (8H, m, $-(\text{CH}_2)_4-$),
2.17 (3H, s, $-\text{CH}_3$), 2.30 (3H, s, $-\text{CH}_3$),
3.00 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$, $\text{C}_3\text{-H}_2$), 3.09 (2H, t, $J=7.2\text{Hz}$, N-CH_2),
3.51 (2H, t, $J=8.3\text{Hz}$, $\text{C}_2\text{-H}_2$), 5.99 (1H, s, $\text{C}_7\text{-H}$)

(4) 1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル) ウレア

(3) で得られた4, 6-ジメチル-1-ヘキシル-5-ニトロインドリン1.0 gをベンゼン40 mlに溶解し、10%パラジウム-炭素100 mgを加え、40℃にて水素添加した。反応終了後、パラジウム-炭素を濾別し、飽和炭酸水素ナトリウムおよび飽和食塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧下留去した。得られた5-アミノ-4, 6-ジメチル-1-ヘキシルインドリンをクロロホルム20 mlに溶解し、ブチルイソシアネート400 mgを加え、室温で18時間攪拌した。反応液に水を加え、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウ

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

ムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開溶媒：クロロホルム-メタノール=1：0～50：1）で精製後、エタノールにて再結晶し、標記化合物（4）650mgを得た。

¹H-NMR (CDCl₃) δ:

0.91 (6H, br-t, -CH₃),

1.0 - 2.0 (12H, m, -(CH₂)₄-, -(CH₂)₈-),

2.09 (3H, s, -CH₃),

2.19 (3H, s, -CH₃),

2.6 - 3.6 (8H, m, CO-CH₂, C₃-H₂, N-CH₂, C₂-H₂),

4.29 (1H, br, NH),

5.45 (1H, br, NH),

6.18 (1H, s, C₇-H)

実施例2：N-（1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル）-2, 2-ジメチルプロパンアミド

5-アミノ-4, 6-ジメチル-1-ヘキシルインドリン880mgをクロロホルム20mlに溶解し、トリエチルアミン370mgおよびピバロイルクロライド430mgを加え、室温で1時間攪拌した。反応液に水を加え、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開溶媒：クロロホルム-メタノール=1：0～50：1）で精製後、エタノールにて再結晶し、標記化合物650mgを得た。

¹H-NMR (CDCl₃) δ:

0.84 (3H, br-t, -CH₃),

1.1 - 1.8 (8H, m, -(CH₂)₄-),

1.33 (9H, s, -(CH₃)₃),

2.00 (3H, s, -CH₃),

2.11 (3H, s, -CH₃),

2.82 (2H, t, J=7.8Hz, C₃-H₂),

2.99 (2H, t, J=7.2Hz, N-CH₂),

3.33 (2H, t, J=7.8Hz, C₂-H₂),

6.16 (1H, s, C₇-H),

6.70 (1H, br, N-H)

実施例3：N-（1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル）-2, 2-ジメチルプロパンアミド

(1) 1-アセチル-5-ブロム-4, 6-ジメチルインドリン

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

1-アセチル-4, 6-ジメチルインドリン 5.5 g を酢酸 150 ml に溶解し、室温にて臭素 2.2 ml を滴下した。室温で1時間攪拌後、氷水中に注加し、析出した固形物を濾別後、メタノールにて再結晶し、標記化合物 (1) 6.5 g を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

2.18 (3H, s, $-\text{COCH}_3$), 2.27 (3H, s, $-\text{CH}_3$),
2.39 (3H, s, $-\text{CH}_3$), 3.06 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$, $\text{C}_2\text{-H}_2$),
4.03 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$, $\text{C}_2\text{-H}_2$), 7.99 (1H, s, $\text{C}_7\text{-H}$)

(2) 5-ブロム-4, 6-ジメチル-7-ニトロインドリン

酢酸 25 ml に濃硫酸 25 ml および硝酸 ($d=1.56$) 1.46 ml を加え、 0°C にて攪拌下、(1) で得られた 1-アセチル-5-ブロム-4, 6-ジメチルインドリン 6.5 g を加え、同温度にて18時間攪拌した。反応液を氷水中に注加し、析出した固形物を濾別し、十分に水洗した。得られた固形物をエタノール 50 ml および水 10 ml に懸濁し、水酸化ナトリウム 20 g を加え、3時間還流した。溶媒を減圧下留去し、クロロホルムを加え、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去後、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (展開溶媒: ベンゼン) で精製し、標記化合物 (2) 4.8 g を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

2.29 (3H, s, $\text{C}_4\text{-CH}_3$), 2.65 (3H, s, $\text{C}_6\text{-CH}_3$),
3.10 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$, $\text{C}_2\text{-H}_2$), 3.82 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$, $\text{C}_2\text{-H}_2$),
9.0 (1H, br, N-H)

(3) N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド

(2) で得られた 5-ブロム-4, 6-ジメチル-7-ニトロインドリン 3.0 g をジメチルホルムアミド 60 ml に溶解し、 0°C にて水素化ナトリウム (abt. 60% oil suspension) 530 mg を加えた。同温度で0.5時間攪拌後、反応液

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

にヘキシルブロマイド 1.8 g を加え、室温で 12 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルにて抽出し、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開溶媒：ヘキサン-酢酸エチル=1:0~10:1）で精製した。得られた固形物をベンゼン 40 ml に溶解し、10%パラジウム-炭素 100 mg を加え、40℃にて水素添加した。反応終了後、パラジウム-炭素を濾別し、飽和炭酸水素ナトリウムおよび飽和食塩水で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を減圧下留去した。

得られた 7-アミノ-4,6-ジメチル-1-ヘキシルインドリンをクロロホルム 20 ml に溶解し、トリエチルアミン 1.0 g およびピバロイルクロライド 1.0 g を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応液に水を加え、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開溶媒：クロロホルム-メタノール=1:0~50:1）で精製した。得られた化合物（3）をエタノールに溶解し、10N塩酸/エタノール 1 ml を加えた後、溶媒を減圧下留去した。得られた残渣をエタノールにて再結晶し、標記化合物（3）の塩酸塩 700 mg を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

0.90 (3H, br-t, $-\text{CH}_3$),	1.1 - 1.6 (8H, m, $-(\text{CH}_2)_4-$),
1.41 (9H, s, $-(\text{CH}_3)_3$),	2.15 (3H, s, $-\text{CH}_3$),
2.25 (3H, s, $-\text{CH}_3$),	3.15 (4H, m, $\text{C}_2\text{-H}_2$, N-CH_2),
3.70 (1H, m, $\text{C}_2\text{-H}$),	4.00 (1H, m, $\text{C}_2\text{-H}$),
7.12 (1H, s, $\text{C}_5\text{-H}$),	9.2 (1H, br, N-H)

実施例 4 : 1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4,6-ジメチルインドリン-7-イル)ウレア

7-アミノ-4,6-ジメチル-1-ヘキシルインドリン 800 mg をクロロホルム 20 ml に溶解し、ブチルイソシアネート 400 mg を加え、室温で 18 時間攪拌した。反応液に水を加え、飽和食塩水で洗浄後、硫酸ナトリウムで乾燥した。溶媒を減圧下留去し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（展開

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

溶媒；クロロホルム-メタノール=1：0～50：1）で精製後、エタノールにて再結晶し、標記化合物450mgを得た。

$^1\text{H-NMR}$ (CDCl_3) δ :

0.88 (6H, br-t, $-\text{CH}_3$),

1.0 - 1.8 (12H, m, $-(\text{CH}_2)_4-$, $-(\text{CH}_2)_2-$),

2.13 (6H, s, $-\text{CH}_3 \times 2$), 2.83 (2H, t, $J=8.3\text{Hz}$, C_2-H_2),

3.20 (4H, N- $\text{CH}_2 \times 2$), 3.43 (2H, t, $J=8.3\text{Hz}$, C_2-H_2),

4.80 (1H, br-t, $\text{NH}-\text{CH}_2$), 5.52 (1H, br-s, C_7-NH),

6.40 (1H, s, C_8-H)

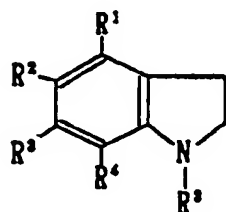
実施例5～36

上記実施例1～4のいずれかと同様の方法にて、表1～2に示す化合物を得た。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 1

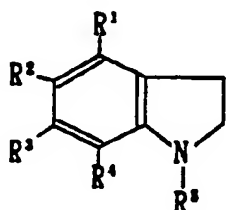


实施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵
5	-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
6	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
7	-OCH ₃	-H	-OCH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
8	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
9	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
10	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
11	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
12	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-CH ₂ CH ₃
13	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
14	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
15	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
16	-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
17	-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH(CH ₃) ₂	-(CH ₂) ₃ CH ₃
18	-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₂ C(CH ₃) ₂ CH ₂ COOH	-(CH ₂) ₃ CH ₃
19	-CH ₂ CH ₃	-H	-CH ₂ CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
20	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ COOH	-(CH ₂) ₃ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 2



実施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵
21	-CH ₃	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
22	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₂ OCOCH ₃
23	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₂ OCH ₃
24	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₂ OC ₂ H ₅
25	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-C ₆ H ₁₁
26	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₂ COOH
27	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-C ₆ H ₁₃
28	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OH	-C ₆ H ₁₃
29	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OCOCH ₃	-C ₆ H ₁₃
30	-CH ₃	-H	-CH ₃		-C ₆ H ₁₃
31	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₂ CH(CH ₃) ₂
32	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-CH ₂ CH(CH ₃) ₂
33	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OCO-	-C ₆ H ₁₃
34	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OC ₂ H ₅	-C ₆ H ₁₃
35	-CH ₃	-H	-CH ₃		-C ₆ H ₁₃
36	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-C ₆ H ₇

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

また、上記実施例 5 ～ 36 の化合物の ^1H -NMR 値を以下に示す。

^1H -NMR (CDCl₃) δ :

- 実施例 5 : 0.91 (3H, br-t), 1.1 - 1.8 (8H, m), 1.34 (9H, s),
(HCl 塩) 2.08 (3H, s), 2.93 - 3.48 (4H, m), 3.48 - 3.82 (1H, m),
3.82 - 4.35 (1H, m), 7.12 (1H, d), 7.32 (1H, d),
9.36 (1H, br-s)
- 実施例 6 : 0.93 (3H, br-t), 1.0 - 2.0 (19H, m), 1.35 (6H, s),
2.12 (3H, s), 2.19 (3H, s), 2.98 (2H, t), 3.25 (2H, t),
3.65 (2H, t), 6.80 (1H, s), 8.09 (1H, br-s)
- 実施例 7 : 0.87 (3H, br-t), 1.1 - 1.8 (8H, m), 1.31 (9H, s),
2.84 (2H, t), 3.16 (2H, t), 3.44 (2H, t),
3.74 (3H, s), 3.79 (3H, s), 5.86 (1H, s)
- 実施例 8 : 0.92 (3H, br-t), 1.39 (9H, s), 1.2 - 1.9 (4H, m),
2.08 (3H, s), 2.15 (3H, s), 2.80 - 3.30 (4H, m),
3.60 (2H, t), 6.68 (1H, s), 7.78 (1H, br-s)
- 実施例 9 : 0.90 (3H, br-t), 0.92 (3H, br-t), 1.08 - 1.88 (10H, m),
1.29 (6H, s), 2.05 (3H, s), 2.12 (3H, s), 2.81 (2H, t),
3.13 (2H, t), 3.40 (2H, t), 6.39 (1H, s), 6.74 (1H, br-s)
- 実施例 10 : 0.63 - 1.05 (6H, m), 1.05 - 1.82 (14H, m), 1.29 (6H, s),
2.08 (3H, s), 2.10 (3H, s), 2.82 (2H, s), 3.13 (2H, t),
3.41 (2H, t), 6.41 (1H, s), 6.77 (1H, br-s)
- 実施例 11 : 0.88 (3H, br-t), 1.01 - 1.87 (12H, m), 1.35 (9H, s),
2.09 (3H, s), 2.14 (3H, s), 2.82 (2H, t), 3.13 (2H, t),
3.52 (2H, t), 6.60 (1H, br-s)
- 実施例 12 : 1.18 (3H, t), 1.35 (9H, s), 2.09 (3H, s), 2.15 (3H, s),
2.92 (2H, t), 3.22 (2H, q), 3.56 (2H, t), 6.62 (1H, s),
7.57 (1H, br-s)

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

- 实施例13 : 0.88 (3H, br-t), 1.08 (3H, t), 1.29 (6H, s),
1.1 - 1.9 (10H, m), 2.08 (3H, s), 2.22 (3H, s),
2.82 (2H, t), 3.21 (2H, q), 3.33 (2H, t), 6.43 (1H, s),
6.84 (1H, br-s)
- 实施例14 : 0.90 (3H, br-t), 0.92 (3H, br-t), 1.08 - 1.88 (14H, m),
1.29 (6H, s), 2.05 (3H, s), 2.12 (3H, s), 2.81 (2H, t),
3.13 (2H, t), 3.40 (2H, t), 6.39 (1H, s), 6.74 (1H, br-s)
- 实施例15 : 0.63 - 1.05 (6H, m), 1.05 - 1.82 (18H, m), 1.34 (6H, s),
2.11 (3H, s), 2.17 (3H, s), 2.95 (2H, s), 3.13 (2H, t),
3.60 (2H, t), 6.72 (1H, s), 7.8 (1H, br)
- 实施例16 : 0.89 (3H, br-t), 1.05 - 1.70 (8H, m), 1.81 (3H, s),
2.11 (3H, s), 2.15 (3H, s), 2.81 (2H, br-t),
2.6 - 3.8 (4H, m), 6.39 (1H, s), 6.58 (1H, br), 6.72 (1H, br)
- 实施例17 : 0.87 (3H, br-t), 1.05 - 1.90 (8H, m), 1.25 (3H, s),
1.32 (3H, s), 2.11 (3H, s), 2.17 (3H, s), 2.67 (1H, m),
2.7 - 3.4 (4H, m), 3.59 (2H, t), 6.69 (1H, s),
7.83 (1H, br-s)
- 实施例18 : 0.87 (3H, br-t), 1.05 - 1.80 (8H, m), 1.21 (6H, s),
2.17 (6H, s), 2.48 (2H, s), 2.55 (2H, s), 3.01 (2H, t),
3.10 (2H, t), 3.54 (2H, t), 6.70 (1H, s),
6.8 - 8.2 (1H, br-s), 8.72 (1H, br-s)
- 实施例19 : 0.87 (3H, br-t), 1.05 - 1.80 (8H, m), 1.17 (3H, t),
1.20 (3H, t), 1.35 (9H, s), 2.22 - 2.62 (4H, m),
2.91 (2H, t), 3.04 (2H, t), 3.48 (2H, br-t),
6.56 (1H, s), 7.25 (1H, br-s)
- 实施例20 : 0.85 (3H, br-t), 1.05 - 1.80 (8H, m), 1.27 (6H, s),
1.80 - 2.25 (2H, m), 2.10 (3H, s), 2.16 (3H, s),

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

- 2.25 - 2.55 (2H. m), 2.90 (2H. t), 3.04 (2H. t),
3.47 (2H. t), 6.69 (1H. s), 8.49 (1H. br-s), 8.95 (1H. br-s)
- 实施例21 : 0.83 (3H. br-t), 0.87 (3H. br-t), 1.1 - 1.8 (11H. m),
2.11 (3H. s), 2.16 (3H. s), 2.29 (1H. t), 2.85 (2H. t),
3.22 (2H. t), 3.55 (2H. t), 6.49 (1H. s), 6.68 (1H. br)
- 实施例22 : 1.27 (9H. s), 2.04 (6H. s), 2.13 (3H. s), 3.06 (2H. t),
3.43 (2H. t), 3.75 (2H. t), 4.29 (2H. t), 6.87 (1H. s),
9.15 (1H. br-s)
- 实施例23 : 1.33 (9H. s), 2.04 (3H. s), 2.09 (3H. s), 2.8 - 2.9 (4H. m),
3.38 (3H. s), 3.4 - 3.6 (4H. m), 6.36 (1H. s), 7.35 (1H. br-s)
- 实施例24 : 1.16 (3H. t), 1.32 (9H. s), 2.04 (3H. s), 2.09 (3H. s),
2.82 (2H. t), 3.3 - 3.6 (8H. m), 6.53 (1H. s), 7.40 (1H. br-s)
- 实施例25 : 0.88 (3H. br-t), 1.35 (9H. s), 1.2 - 1.9 (6H. m),
2.08 (3H. s), 2.15 (3H. s), 2.92 (2H. t), 3.13 (2H. t),
3.55 (2H. t), 6.23 (1H. s), 7.60 (1H. br-s)
- 实施例26 : 1.1 - 1.9 (6H. m), 1.39 (9H. s), 2.07 (3H. s), 2.13 (3H. s),
2.29 (2H. t), 2.84 (2H. t), 3.11 (2H. t), 3.43 (2H. t),
5.40 (1H. br), 6.52 (1H. s), 7.30 (1H. br-s)
- 实施例27 : 0.87 (3H. br-t), 1.1 - 1.8 (10H. m), 1.34 (9H. s),
2.07 (3H. s), 2.13 (3H. s), 2.87 (2H. t), 3.13 (2H. t),
3.49 (2H. t), 6.52 (1H. s), 7.20 (1H. br-s)
- 实施例28 : 0.87 (3H. br-t), 1.1 - 1.8 (8H. m), 1.26 (6H. s),
1.99 (3H. s), 2.08 (3H. s), 2.78 (2H. t), 3.10 (2H. t),
3.37 (2H. t), 3.48 (2H. s), 4.00 (1H. br-s), 6.35 (1H. s),
7.81 (1H. s)
- 实施例29 : 0.87 (3H. br-t), 1.1 - 1.8 (8H. m), 1.28 (6H. s),
2.07 (6H. s), 2.12 (3H. s), 2.84 (2H. t), 3.14 (2H. t),

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

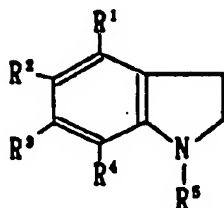
- 3.43 (2H, t), 4.20 (2H, s), 6.48 (1H, s), 7.35 (1H, s)
- 実施例30 : 0.87 (3H, br-t), 1.1 - 1.8 (8H, m), 2.15 (6H, s),
2.82 (2H, t), 3.16 (2H, t), 3.43 (2H, t), 6.43 (1H, s),
7.42 (2H, m), 8.22 (1H, m), 8.75 (1H, m), 9.16 (1H, br-s)
- 実施例31 : 0.90 (6H, d), 1.3 - 1.8 (3H, m), 1.36 (9H, s),
2.09 (3H, s), 2.16 (3H, s), 2.92 (2H, t), 3.16 (2H, t),
3.54 (2H, t), 6.65 (1H, s), 7.65 (1H, br-s)
- 実施例32 : 0.94 (6H, d), 1.33 (9H, s), 1.7 - 2.0 (1H, m),
2.04 (3H, s), 2.10 (3H, s), 2.82 (2H, t), 2.94 (2H, t),
3.38 (2H, t), 6.37 (1H, s), 6.70 (1H, br-s)
- 実施例33 : 0.85 (3H, br-t), 1.1 - 1.8 (8H, m), 1.44 (6H, s),
2.03 (3H, s), 2.08 (3H, s), 2.80 (2H, t), 3.14 (2H, t),
3.41 (2H, t), 4.50 (2H, s), 6.37 (1H, s), 7.04 (1H, br-s),
7.40 (2H, m), 8.28 (1H, m), 8.75 (1H, m), 9.21 (1H, d)
- 実施例34 : 0.88 (3H, br-t), 1.1 - 1.8 (8H, m), 1.23 (3H, t),
1.27 (6H, s), 2.07 (3H, s), 2.10 (3H, s), 2.81 (2H, t),
3.18 (2H, t), 3.41 (2H, t), 3.48 (2H, s), 3.55 (2H, q),
6.37 (1H, s), 8.00 (1H, br-s)
- 実施例35 : 0.88 (3H, br-t), 1.1 - 1.8 (14H, m), 1.24 (6H, s),
2.10 (6H, s), 2.50 (2H, t), 2.90 (2H, t), 2.8 - 3.6 (8H, m),
6.39 (1H, s), 7.00 (1H, br-s)
- 実施例36 : 0.87 (3H, br-t), 1.2 - 1.9 (2H, m), 1.35 (9H, s),
2.08 (3H, s), 2.15 (3H, s), 2.93 (2H, t), 3.12 (2H, t),
3.50 (2H, t), 6.30 (1H, s), 7.40 (1H, br-s)

さらに、上記実施例1～4のいずれかと同様の方法にて、表3～表9に示す化合物を製造することができる。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 3

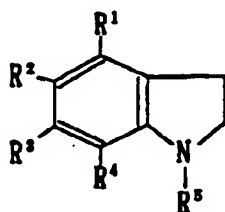






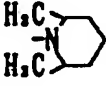
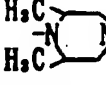
実施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵
37	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-CH ₂ -CH=C(CH ₃) ₂
38	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₄ SO ₃ Na
39	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₄ -N
40	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₄ -N
41	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₄ -N-CH ₃
42	-CH ₃	-H	-CH ₃	-	-CH ₂ CH ₃
43	-CH ₃	-H	-CH ₃	-	-(CH ₂) ₄ CH ₃
44	-CH ₃	-H	-CH ₃	--CH ₂ NH ₂	-(CH ₂) ₄ CH ₃
45	-CH ₃	-H	-CH ₃	-	-(CH ₂) ₄ COOH
46	-CH ₃	-H	-CH ₃	-NCH ₂ CH ₂ COOH	-(CH ₂) ₄ CH ₃
47	-CH ₃	-H	-CH ₃	-N-CH ₃	-(CH ₂) ₄ CH ₃
48	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₄ N	-(CH ₂) ₄ CH ₃
49	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₄ N	-(CH ₂) ₄ CH ₃
50	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OC(=O)CH ₂ N	-(CH ₂) ₄ CH ₃
51	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -(CH ₂) ₂ -	-CH ₂ CH ₃
52	-CH ₃	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₄ OC(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₄ CH ₃
53	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -(CH ₂) ₂ O	-(CH ₂) ₄ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 4

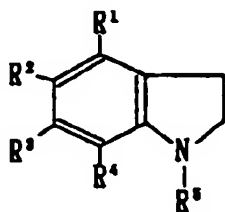


実施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵
54	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -(CH ₂) ₆ -N-CH ₂ - CH ₂ - 	-CH ₂ CH ₃
55	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -(CH ₂) ₆ -N 	-CH ₂ CH ₃
56	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -(CH ₂) ₆ -N  - 	-CH ₂ CH ₃
57	-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₂ C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃
58	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₂ SO ₃ Na	-(CH ₂) ₆ CH ₃
59	-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₂ C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₂ SO ₃ Na	-(CH ₂) ₆ CH ₃
60	-CH ₃	-H	-CH ₃		-(CH ₂) ₆ CH ₃
61	-CH ₃	-H	-CH ₃		-(CH ₂) ₆ CH ₃
62	-H	-H	-OCH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃
63	-H	-H	-OCH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃
64	-H	-H	-OCH(CH ₃) ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃
65	-H	-H	-OCH(CH ₃) ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃
66	-H	-H	-OCH(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃
67	-H	-H	-OCH(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃	-(CH ₂) ₆ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 5



実施例	R ¹	R ²	R ³	-R ⁴ -R ⁵ -
68	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₂ -
69	-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₂ C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₂ -
70	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OCO(CH ₂) ₃ -
71	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ CH ₂ OCOC(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ -

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

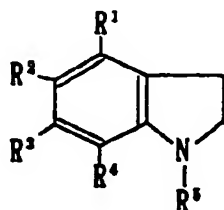


表 6

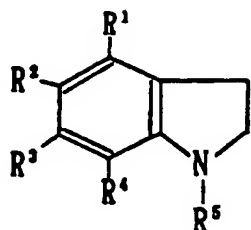
 $R^4 = -NHCONH-R^7$

実施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁷	R ⁵
72	-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
73	-CH ₃	-H	-CH ₃		-(CH ₂) ₃ CH ₃
74	-OCH ₃	-H	-OCH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
75	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
76	-CH ₃	-H	-CH ₃		-(CH ₂) ₃ CH ₃
77	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
78	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-CH ₂ CH ₃
79	-CH ₃	-H	-CH ₃		-CH ₂ CH ₃
80	-CH ₃	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
81	-H	-H	-CH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
82	-H	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
83	-H	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
84	-H	-H	-CH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
85	-H	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
86	-H	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
87	-H	-H	-OCH ₃	-CH ₃	-CH ₂ CH ₃
88	-H	-H	-OCH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
89	-H	-H	-OCH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
90	-H	-H	-OCH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
91	-H	-H	-OCH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
92	-H	-H	-OCH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 7

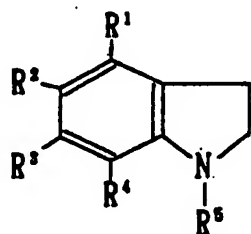


実施例	R ¹	R ³	R ⁴	R ⁷	R ⁵
93	-H	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₄ CH ₃
94	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₅ CH ₃
95	-OCH ₃	-OCH ₃	-H	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₅ CH ₃
96	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
97	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
98	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₅ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
99	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
100	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₃	-CH ₂ CH ₃
101	-CH ₃	-CH ₃	-H	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
102	-CH ₃	-CH ₃	-H	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₅ CH ₃
103	-CH ₃	-CH ₃	-H	-(CH ₂) ₅ CH ₃	-(CH ₂) ₅ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 8

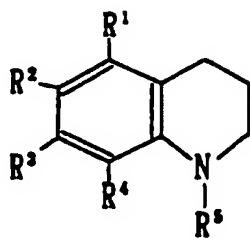


实施例	R ¹	R ²	R ⁴	R ⁵	R ⁶
104	-H	-OCH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₂ CH ₃
105	-H	-OCH ₃	-H	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
106	-H	-OCH ₃	-H	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-CH ₂ CH ₃
107	-H	-OCH ₃	-H	-CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃
108	-H	-OCH ₃	-H	-(CH ₂) ₃ CH ₃	-(CH ₂) ₃ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 9



実施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁶	R ⁵
109	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
110	-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
111	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₈ CH ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
112	-OCH ₃	-H	-OCH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
113	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
114	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₈ CH ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
115	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₈ CH ₃	-(CH ₂) ₈ CH ₃
116	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-(CH ₂) ₇ CH ₃
117	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₃	-CH ₂ CH ₃
118	-CH ₃	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ (CH ₂) ₈ CH ₃	-CH ₂ CH ₃

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

実験例 1 : A C A T 阻害作用

体重 2 ～ 2.5 k g の雄性日本白色ウサギに、高コレステロール飼料（コレステロール 1 % を添加した飼料、日本クレア）を 1 日 1 0 0 g ずつ与え、4 週間飼育した後、麻酔下に放血屠殺し小腸を摘出した。小腸粘膜を剝離収集し、ホモジネートとした後、4 °C、10,000rpm で 1 5 分間遠心分離した。得られた上清をさらに 4 °C、41,000rpm で 3 0 分間遠心分離し、ミクロゾーム分画を得た。このミクロゾーム懸濁液を酵素標本とし、ジメチルスルホキシド（DMSO）または DMSO に溶解した被験化合物溶液 5 μ l を添加し、さらに、反応用緩衝液に基質となる〔1-¹⁴C〕-オレオイル C o A を加えた。3 7 °C で 5 分間インキュベーションした後、クロロホルム-メタノール混液を加え、反応を停止させた。これに水を加えて混合した後クロロホルム層を分取し、溶媒を蒸発乾固させた後ヘキサンに溶解し、シリカゲルプレートを用いて薄層クロマトグラフィーを行った。シリカゲルプレート上のオレオイルコレステロールのスポットをかきとり、液体シンチレーションカウンターで定量した。被験化合物の A C A T 阻害活性をオレオイルコレステロール生成阻害率（%）〔対照と比較してどれだけオレオイルコレステロール生成が阻害されたか〕で表した。

結果を表 1 0 ～ 1 1 に示す。

実験例 2 : 血清総コレステロール低下作用

体重 1 8 0 ～ 2 0 0 g のウイスター系雄性ラットに、高コレステロール飼料（コレステロール 1 %、コール酸 0.5 %、ココナッツオイル 1 0 % を添加した飼料、日本クレア）を自由に摂取させて 3 日間飼育した。この間、5 % アラビアゴム溶液に懸濁させた被験化合物 1 0 ～ 1 0 0 mg / kg を、上記試験動物に 1 日 1 回、3 日間強制経口投与した。対照動物には 5 % アラビアゴム溶液のみを投与した。最終投与後、試験動物を絶食させ、5 時間後に採血した。血清総コレステロール値を市販の測定キット（コレステロール-E-テストワコー、和光純薬）を用いて測定した。被験化合物の活性を血清総コレステロール低下率（%）〔対照と比較してどれだけ血清総コレステロールが低下したか〕で表した。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

結果を表 10～11 に示す。

実験例 3 : LDL 過酸化阻害作用

体重 2～2.5 kg の雄性日本白色ウサギに、高コレステロール飼料（コレステロール 1 % を添加した飼料、日本クレア）を 1 日 100 g ずつ与え、4 週間飼育した後、頸動脈より採血し、血漿を得た。続いて、血漿から超遠心分離法により LDL を分画して 1 昼夜透析した後、4 °C で保存した。LDL (400 μ g) および硫酸銅水溶液（終濃度 5 μ M）を緩衝化 Ham F-10 メジウム (GIBCO, USA) 2 ml 中に加え、DMSO または DMSO に溶解した被験化合物溶液 20 μ l を添加し、37 °C で 24 時間インキュベーションした。インキュベーション終了後、メジウム中の過酸化 LDL をチオバルビツール酸法で発色させてマロンジアルデヒドとして定量した。被験化合物の活性をマロンジアルデヒド生成阻害率 (%) [対照と比較してどれだけマロンジアルデヒド生成が阻害されたか] で表した。

結果を表 10～11 に示す。

実験例 4 : 血漿脂質過酸化阻害作用

体重 2～2.5 kg の雄性日本白色ウサギより麻酔下に採血し、常法によりヘパリン加血漿を分離した。血漿 2.0 ml に、DMSO または DMSO に溶解した被験化合物溶液 20 μ l（終濃度 10^{-5} M）を添加し、直ちに硫酸銅水溶液（終濃度 5 mM）を加え、37 °C で 3 時間インキュベーションした。インキュベーション終了後、20 % トリクロロ酢酸を加えて反応を停止させた。次に、4 °C、4,500 rpm で 15 分間遠心分離して得られた上清中の過酸化脂質を、チオバルビツール酸法で発色させてマロンジアルデヒドとして定量した。被験化合物の活性をマロンジアルデヒド生成阻害率 (%) [対照と比較してどれだけマロンジアルデヒド生成が阻害されたか] で表した。

結果を表 10～11 に示す。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 10

被験 化合物	実験例 1 結果 (%) * 1	実験例 2 結果 (%) * 2	実験例 3 結果 (%) * 3	実験例 4 結果 (%) * 4
実施例 1	76.6 **	12.9 ***	99.2	94.3
実施例 2	59.9 **	—	99.5	95.8
実施例 3	97.5 **	54.4 **	93.3	90.4
実施例 4	94.9 **	21.4 **	59.5	92.0
実施例 6	99.8 **	53.3 **	24.8	37.4
実施例 7	96.2 **	19.2 **	86.6	86.4
実施例 8	99.7 **	48.0 **	91.9	85.1
実施例 9	81.3 **	51.3 **	93.7	81.6
実施例 10	98.7 **	55.2 **	18.3	82.6
実施例 11	99.2 **	59.5 *	91.6	78.8
実施例 12	71.9 **	30.3 **	90.3	74.9
実施例 13	96.0 **	28.4 **	82.4	87.1
実施例 14	96.6 **	53.9 **	88.3	93.1
実施例 15	93.1 **	35.0 *	12.3	90.1
実施例 17	96.7 **	27.0 *	89.6	91.1
実施例 18	69.6 *	22.3 **	34.0	87.1
実施例 20	22.7 *	7.8 *	67.8	91.1
実施例 21	94.4 **	28.3 *	92.1	91.4
実施例 22	78.5 **	38.6 ***	40.6	92.8
実施例 23	88.8 **	23.6 **	54.8	90.5

* 1 : ACAT阻害率 (濃度 * : 10^{-4} M、** : 10^{-5} M)* 2 : 血清総コレステロール低下率 (投与量 * : 10mg/kg/day、
** : 30mg/kg/day、*** : 100mg/kg/day)* 3 : LDL過酸化阻害率 (濃度 : 10^{-5} M)* 4 : 血漿脂質過酸化阻害率 (濃度 : 10^{-5} M)

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

表 1 1

被験化合物	実験例 1 結果 (%) * 1	実験例 2 結果 (%) * 2	実験例 3 結果 (%) * 3	実験例 4 結果 (%) * 4
実施例24	97.1 **	28.3 **	42.2	90.5
実施例25	96.8 **	50.5 **	92.2	93.1
実施例26	26.5 **	37.4 **	43.3	90.1
実施例27	95.5 **	56.9 **	92.2	91.1
実施例28	79.4 **	20.8 ***	92.2	91.1
実施例29	86.6 **	6.9 **	91.9	91.1
実施例30	83.0 **	25.7 ***	94.1	91.8
実施例31	93.8 **	49.0 **	90.3	90.8
実施例32	93.9 **	57.4 **	85.3	89.1
実施例33	82.2 **	7.2 **	87.0	89.5
実施例34	91.0 **	50.2 **	82.9	89.8
実施例35	84.6 **	20.8 **	71.9	91.4
実施例36	95.9 **	50.2 **	83.2	89.1
YM-750	92.3 **	43.8 **	0	—
Probucol	3.4 **	7.3 *	89.4	87.5

* 1 : ACAT阻害率 (濃度 * : 10^{-4} M、** : 10^{-5} M)* 2 : 血清総コレステロール低下率 (投与量 * : 10mg/kg/day、
** : 30mg/kg/day、*** : 100mg/kg/day)* 3 : LDL過酸化阻害率 (濃度 : 10^{-5} M)* 4 : 血漿脂質過酸化阻害率 (濃度 : 10^{-5} M)

YM-750 : 1-シクロヘブチル-1-[(2-フルオレニル)メチル]

-3-(2,4,6-トリメチルフェニル)ウレア

Probucol : 4,4'-イソプロピリデンジチオビス(2,6-ジ
-t-ブチルフェノール)

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

製剤例 1

下記の組成よりなる錠剤を、通常の方法で製造する。

実施例 3 の化合物	2 5 m g
ポリビニルピロリドン	2 0 m g
デンプン	7 5 m g
ステアリン酸マグネシウム	2 m g

製剤例 2

下記の組成よりなるカプセル剤を、通常のカプセル充填方法で製造する。

実施例 6 の化合物	1 0 0 m g
乳糖	2 5 m g
ステアリン酸マグネシウム	1 m g

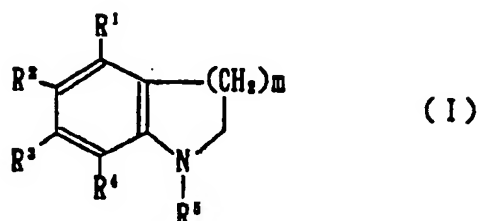
本発明のヘテロ環誘導体およびその医薬上許容される塩は、優れた A C A T 阻害作用および脂質過酸化阻害作用を示し、A C A T 阻害剤および脂質過酸化阻害剤として有用である。即ち、動脈硬化症、高脂血症、糖尿病における動脈硬化性病変、脳および心臓等の虚血性疾患等の予防および治療に有用である。

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

請求の範囲

1. 一般式 (I)



(式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 および R^4 のいずれか1つは $-NHCO-R^6$ (R^6 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、 $-R^A SO_2 A$ 、 $-R^B PO_2 B$ (R^A および R^B はそれぞれアルキレン基を、A および B はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)、 $-NR^7 R^8$ (R^7 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を、 R^8 は水素原子または低級アルキル基を示す) または $-R^9 -OCOR^{10}$ (R^9 はアルキレン基を、 R^{10} は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基を示す) を示す) で表される基を示し、また残りの3つは同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、 R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、アルケニル

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

基、アルキニル基、ジアルキルアミノアシルオキシアルキル基、 $-R^D SO_2$, D
または $-R^E PO_2$, E (R^D および R^E はそれぞれアルキレン基を、D および E
はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)を示し、また、 R^4 が $-NHC$
 $O-R^6$ である場合には R^6 と R^5 が一緒になって環を形成していてもよく、m
は1または2を示す。]

で表されるヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩。

2. 1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル)
ウレア、

1-ブチル-3-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル) ウ
レア、

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-5-イル)-2, 2-ジメ
チルプロパンアミド、

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメ
チルプロパンアミド、

N-(1-ペンチル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメ
チルプロパンアミド、

N-(1-イソブチル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジ
メチルプロパンアミド、

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメ
チルブタンアミド、

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメ
チルペンタンアミド、

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-シクロヘキサ
ンアミド、

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメ
チル-3-エトキシプロパンアミド、

N-(1-エトキシプロピル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2,

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

2-ジメチルプロパンアミド、

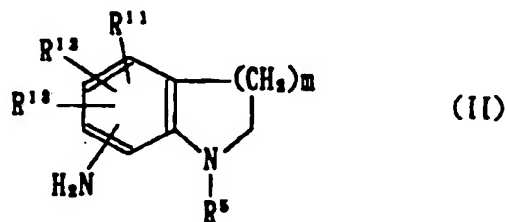
N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチル-3-ピペリジノプロパンアミド、

N-(1-ピペリジノプロピル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 2-ジメチルプロパンアミド、および

N-(1-ヘキシル-4, 6-ジメチルインドリン-7-イル)-2, 6-ジメチルピペリジノプロパンアミド

から選ばれる請求の範囲1記載のヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩。

3. ①一般式 (II)



〔式中、 R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、ジアルキルアミノアシルオキシアルキル基、 $-R^D SO_2$ または $-R^E PO_2$ 、E (R^D および R^E はそれぞれアルキレン基を、DおよびEはそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す) を示し、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} は同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、mは1または2を示す。〕

で表されるアミン (以下、化合物 (II) という) と、一般式 (III)



〔式中、 R^1 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよい

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

いシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を示す。]

で表されるイソシアナートを反応させる工程を経るか、

②化合物 (II) と、一般式 (IV)



[式中、 R^6 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、 $-R^A SO_2 A$ 、 $-R^B PO_2 B$ (R^A および R^B はそれぞれアルキレン基を、 A および B はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)、 $-NR^7 R^8$ (R^7 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を、 R^8 は水素原子または低級アルキル基を示す) または $-R^9 - OCOR^{10}$ (R^9 はアルキレン基を、 R^{10} は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基を示す) を示し、 X はハロゲン原子を示す。]

で表されるハロゲン化合物を反応させる工程を経るか、

③化合物 (II) と、一般式 (V)



[式中、 R^{11} は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していても

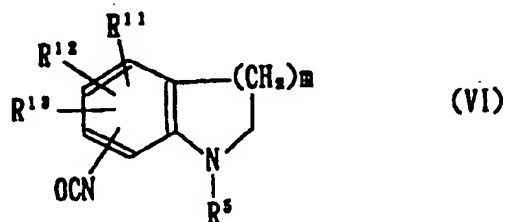
WO 96/09287

PCT/JP95/01873

よいヘテロサイクリックアルキル基を示す。]

で表されるカルボン酸またはその反応性誘導体を反応させる工程を経るか、

④一般式 (VI)



[式中、 R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、ジアルキルアミノアシルオキシアルキル基、 $-R^D SO$ 、Dまたは $-R^E PO$ 、E (R^D および R^E はそれぞれアルキレン基を、DおよびEはそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す) を示し、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} は同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、mは1または2を示す。]

で表されるイソシアナートと、一般式(VII)



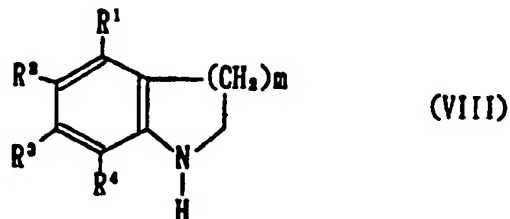
[式中、 R^7 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を、 R^8 は水素原子または低級アルキル基を示す。]

で表されるアミンを反応させる工程を経るか、または、

⑤一般式(VIII)

WO 96/09287

PCT/JP95/01873



〔式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 および R^4 のいずれか 1 つは $-NHCO-R^5$ (R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、 $-R^A SO_2 A$ 、 $-R^B PO_2 B$ (R^A および R^B はそれぞれアルキレン基を、 A および B はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)、 $-NR^7 R^8$ (R^7 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を、 R^8 は水素原子または低級アルキル基を示す) または $-R^9 -OCOR^{10}$ (R^9 はアルキレン基を、 R^{10} は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基を示す) を示す) で表される基を示し、また残りの 3 つは同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、 m は 1 または 2 を示す。〕

で表される化合物と、一般式 (IX)



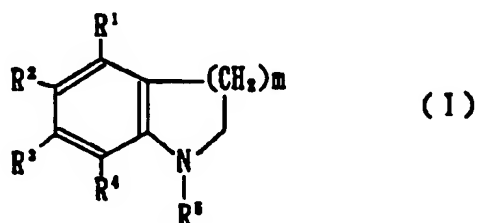
〔式中、 R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよい

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

ヘテロサイクリックアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、ジアルキルアミノアールオキシアルキル基、 $-R^D SO$ 、Dまたは $-R^E PO$ 、E (R^D および R^E はそれぞれアルキレン基を、DおよびEはそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す) を示し、Xはハロゲン原子を示す。]

で表される化合物を反応させる工程を経ることを特徴とする、一般式 (I)



[式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 および R^4 のいずれか1つは $-NHCO-R^A$ (R^A は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、 $-R^A SO$ 、A、 $-R^B PO$ 、B (R^A および R^B はそれぞれアルキレン基を、AおよびBはそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す)、 $-NR^C R^D$ (R^C は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基または置換基を有していてもよいアリールアルキル基を、 R^D は水素原子または低級アルキル基を示す) または $-R^B -OCOR^{10}$ (R^B はアルキレン基を、 R^{10} は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基または置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基を示す) を示す] で表される基を示し、また残りの8つは同一または異なってもよくそれぞれ独立して、水素原子、低級アルキル基または低級アルコキシ基を示し、 R^5 は置換基を有していてもよいアルキル基、置換基を有していてもよいシクロアルキル基、置換基を有していても

WO 96/09287

PCT/JP95/01873

よいシクロアルキルアルキル基、置換基を有していてもよいアリール基、置換基を有していてもよいアリールアルキル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクル基、置換基を有していてもよいヘテロサイクリックアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、ジアルキルアミノアシルオキシアルキル基、 $-R^D SO_2$ 、D または $-R^E PO_2$ 、E (R^D および R^E はそれぞれアルキレン基を、D および E はそれぞれアルカリ金属または水素原子を示す) を示し、また、 R^4 が $-NHC(O-R^5)$ である場合には R^5 と R^4 が一緒になって環を形成していてもよく、m は 1 または 2 を示す。)

で表されるヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩の製造方法。

4. 請求の範囲 1 または 2 記載のヘテロ環誘導体またはその医薬上許容される塩を含有してなる医薬組成物。

5. アシルコエンザイム A : コレステロールアシルトランスフェラーゼ阻害剤である請求の範囲 4 記載の医薬組成物。

6. 脂質過酸化阻害剤である請求の範囲 4 記載の医薬組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP95/01873

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int. Cl⁶ C07D209/08, 401/12, 403/12, 487/06, 498/06, 215/40,
A61K31/40, 31/44, 31/445, 31/495, 31/47

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int. Cl⁶ C07D209/00-96, 401/00-14, 403/00-14, 487/00-22,
498/00-22, 215/00-60, A61K31/395-55

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CAS ONLINE

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	WO, 94-14801, A (SMITHKLINE BEECHAM PLC), July 7, 1994 (07. 07. 94) (Family: none)	1, 3, 4
X A	US, 3,824,230, A (UPJOHN Co.), July 16, 1974 (16. 07. 74) (Family: none)	1 3
A	WO, 92-18462, A (SCHERING Corp.), October 29, 1992 (29. 10. 92) & EP, 508425, A & AU, 9218868, A & EP, 583346, A & JP, 6-505025, A & US, 5416118, A	1 - 6
A	JP, 5-97802, A (Lipha, Lyonnaise Industrielle Pharmaceutique), April 20, 1993 (20. 04. 93) & EP, 506532, A & AU, 9213094, A & FR, 2674522, A & US, 5219859, A	1 - 6
A	JP, 5-140102, A (Fujisawa Pharmaceutical Co., Ltd.), June 8, 1993 (08. 06. 93)	1 - 6

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.
 ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered
to be of particular relevance

"E" earlier document but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is
cited to establish the publication date of another citation or other
special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other
means

"P" document published prior to the international filing date but later than
the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority
date and not in conflict with the application but cited to understand
the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be
considered novel or cannot be considered to involve an inventive
step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be
considered to involve an inventive step when the document is
combined with one or more other such documents, such combination
being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

January 10, 1996 (10. 01. 96)

Date of mailing of the international search report

January 30, 1996 (30. 01. 96)

Name and mailing address of the ISA/

Japanese Patent Office

Facsimile No.

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP95/01873

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	& EP, 512570, A & AU, 9215282, A & CA, 2068261, A WO, 91-9017, A (Takeda Chemical Industries, Ltd.), June 27, 1991 (27. 06. 91) & JP, 6-503550, A & EP, 505565, A & US, 5362742, A	1 - 6

国際調査報告		国際出願番号 PCT/JP 95 / 01873	
A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC)) Int. Cl. C07D209/08.401/12.403/12.487/06.498/06.215/40.A61K31/40.31/44.31/445.31/495.31/47			
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC)) Int. Cl. C07D209/00-96.401/00-14.403/00-14.487/00-22.498/00-22.215/00-60 A61K31/395-55 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの			
国際調査で使った電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語) OAS ON LINE			
C. 関連すると認められる文献			
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号	
X	WO, 94-14801, A (SMITHKLINE BEECHAM PLO), 7. 7月. 1994 (07. 07. 94) (ファミリーなし)	1, 3, 4	
X A	US, 3824230, A (UPJOHN Co.), 16. 7月. 1974 (16. 07. 74) (ファミリーなし)	1 3	
A	WO, 92-18462, A (SCHERING Corp.), 29. 10月. 1992 (29. 10. 92)	1-6	
<input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。			
* 引用文献のカテゴリー 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」 先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献		「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」 同一パテントファミリー文献	
国際調査を完了した日 10. 01. 96		国際調査報告の発送日 30.01.96	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官 (権限のある職員) 星 野 紹 英 電話番号 03-3581-1101 内線 3453	

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP 95 / 01873

C (続き). 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
	& EP, 508425, A & AU, 9218868, A & EP, 583346, A & JP, 6-505025, A & US, 5416118, A	
A	JP, 5-97802, A (リファ, リヨンネーズ アンデュストリエル ファルマシューテイク), 20. 4月. 1993 (20. 04. 93) & EP, 506532, A & AU, 9213094, A & FR, 2674522, A & US, 5219859, A	1-6
A	JP, 5-140102, A (藤沢薬品工業), 8. 6月. 1993 (08. 06. 93) & EP, 512570, A & AU, 9215282, A & CA, 2068261, A	1-6
A	WO, 91-9017, A (武田薬品工業), 27. 6月. 1991 (27. 06. 91) & JP, 6-503550, A & EP, 505565, A & US, 5362742, A	1-6

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.